

バイオバンク検体利活用のためのISBER ベストプラクティス (第5版) 日本語版の使い方

日本人類遺伝学会第70回大会 ランチョンセミナー9 (LS9)

演者: 松下 一之 先生

千葉大学医学部附属病院 検査部・臨床検査科 (兼)
遺伝子診療部／がんゲノムセンター／超音波センター

司会: 中嶋 祥人

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社 ラボプロダクツ事業部
一般財団法人日本生物資源産業利用協議会 (CIBER)

日時: 2025年12月19日 (金) 12:50~13:50

場所: 第5会場 (パシフィコ横浜・3階 311+312)

講演要旨

臨床検体を含む生物学的及び環境的リポジトリの利活用を念頭において開発された最新の国際的なベストプラクティスについて解説する。本ガイダンスの遵守は任意であるが、施設における使用目的、検体の質保証、規制などのベストプラクティスを知ることができる。施設における方針がない場合や利活用の新しい標準を実装したい場合、本ベストプラクティスを通して適切な戦略を知ることができる。国際生物・環境リポジトリ協会 (ISBER) ベストプラクティス第5版が2023年に公開された。英語を母国語としない多くの国では、英語以外の言語への翻訳が進められており、各国でバイオバンキングの充実にに向けた取り組みが進められている。一方で、英語から他言語への翻訳作業においては、標準作業手順書 (SOP) すなわち、訳語が適切かどうかの確認といった翻訳プロセスや語彙選定の標準化が不十分で、各国のやり方でボランティアに委ねられている。この翻訳プロセスを加速し、さらに他の翻訳資源の少ない国々へ扉を開くためには、他言語への翻訳作業に関する翻訳プロセスや語彙選定の標準化に関する議論が有益であると考えられる。本セミナーを受講される方々が日頃お悩みの、研究や臨床における生物試料の利活用に際して、今後の適切な戦略を知る一助になれば幸いである。

※セミナーの最後に、サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社ラボプロダクツ事業部マーケティング部の中島弘喜より「サンプル管理の効率性と信頼性向上に有効な当社二次元コード付きチューブの紹介〜ISBERベストプラクティス (第5版) が勧めるサンプル管理〜」の演題で企業プレゼンテーションを行います。

注意事項:

- 本プログラムでは会期後に一部セッションのオンデマンド配信を行います。共催セミナーは現地開催のみとなります。
- 今大会ではランチョンセミナーの事前予約を行います。事前予約は学会の参加登録マイページより可能です。

共催: 日本人類遺伝学会第70回大会／サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社



大会への参加登録はこちら <https://www.congre.co.jp/jshg2025/>

研究用のみ使用できます。診断用には使用いただけません。これらの製品は一般的なラボでの使用を目的としています。

製品の性能がお客様の用途やアプリケーションに適しているかどうかはお客様自身でご確認ください。

© 2025 Thermo Fisher Scientific Inc. All rights reserved.

記載内容は予告なしに変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

LSP547-A25090B

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社

thermo scientific

お問い合わせはこちら thermofisher.com/contact